

世界防災フォーラム 2025 仙台市主催セッション
「災害文化を醸成するアプローチ
-日常生活を見つめる『くらしともしもの研究所』の取り組みから-」 開催結果概要

1. 日時 令和7年3月7日（金） 17:00-18:00
2. 会場 仙台国際センター会議棟 大会議室「萩」
3. 主催 一般社団法人 Granny Rideto（共催：仙台市まちづくり政策局防災環境都市推進室）
4. 入場者数 約 40 名

5. 構成・登壇者

■登壇者

本江 正茂（東北大学）
マリ リズ（東北大学災害科学国際研究所）
桃生 和成（一般社団法人 Granny Rideto）
関本 欣哉（合同会社ターンアラウンド）
佐藤 陽子（仙台市まちづくり政策局防災環境都市推進室）

■構成

- ① 東日本大震災以降に行われた仙台市の災害に関する取り組みや、「くらしともしもの研究所」の活動に至る背景を説明
- ② 「くらしともしもの研究所」の取り組みについて紹介
- ③ 登壇者間によるディスカッション
- ④ 参加者からの質疑応答

6. 内容

仙台市では、「災害は発生するものであるという認識した上で、災害が起きても、それを乗り越えるための知恵や術を持った社会文化」を「災害文化」と定義している。

楽しみや探求心に基づく新しいアプローチで、災害への備えを文化として日常に織り込むための災害文化創造プロジェクト「くらしともしもの研究所」について、その活動内容と成果、課題を紹介し、登壇者間でディスカッションを行った。

7. 参加者からの声（アンケートは取得しておらず、当日の質疑応答から）

- 三陸ジオパークで行っているまち歩きとのコラボをしませんか？

- 外国から見ると日本の暮らしには災害を意識した文化も多いと感じている。
当たり前だから見えないこともありそうなので、改めて拾い上げてみては？
- 災害に備える知恵や術は大事だが、心を開く・人と繋がることが重要と思っている。
「くらしともしもの研究所」の旗印がいろいろな場所に広がって、心を開いて助け合える場になると良い。

(写真)



(左から) 関本氏、桃生氏、佐藤氏、本江氏



マリ氏 (左)



会場の様子